

アジアと女性解放

Asian Women's Liberation

アジアの女たちの会

連絡先：
東京都品川区北品川5-8-15-1403 五島方 400円

特集・戦争と私たちとアジア

■原発は核兵器になる！

— レーガンの核戦略とアジア —

■どこまで進む日本の経済侵略

— 環太平洋構想とは何か —

■「靖国」を拒む

■アジアからの報告

座談会・アジアを旅して

通信・貧困と抑圧の最大の犠牲者は女性と子どもたち

アジアニュース・タイ、フィリピン

恐るべき中華料理店症候群



No.12

1982.7

非核憲法支持を呼びかけるベラウの民衆 (提供・反公害輸出通報センター)

女性差別・民族抑圧からの解放をめざして！

■ 巻頭言 ■

2年前の1980年5月、光州の民衆は自由と民主化を求めて立ちあがり、全斗煥による血の弾圧のなかで、武器を手にとって決起した民衆の闘いは、全斗煥政権のみならず、日本、アメリカの支配者たちをも震撼させた。横須賀を基地とする空母「ミッドウェー」、駆逐艦「パースンズ」、フリゲート艦「カーク」を釜山沖に出動させて警戒態勢をとったことも私たちの記憶に新しい。

60億ドルにのぼる対韓「援助」の論議のなかで、私たちは1982年5月を迎えた。アメリカの軍事援助の肩がわりともいわれるこの「援助」は、日本が今どこに向かって歩み始めようとしているのかを物語っている。「武器輸出三原則」に拘束されている日本は、公けの武器輸出はできない。対韓「援助」は、日本が韓国を経由したアセアン5カ国への武器輸出を含む軍事一体化を目指すものとしての性格をもっているのではないのか。81年春の全斗煥のアセアン5カ国訪問は、その地ならしの役割を担っていた。アメリカを盟主にした日本、韓国、台湾、アセアン5カ国の軍事一体化は、今、着実に進行している。

貿易、投資立国日本にとって、投資先、販売先、資源供給地の政情安定は、何よりも重大な関心事となっている。イランのIJPC(イラン日本石油化学)の失敗を2度と繰返さないために、「カントリーリスク」(政権の安定度を測定し、投下資本の回収・企業進出の目安とするための調査、国家の「危険性」の意)が研究され、「地域研究」に金が流れ、第三世界の国々の政権の安定度が数量的に測定される。「文化交流」や「学術交流」が積極的に推進される。「援助」、「国際協力」の名のもとに巨額のカネ—その資金は私たちの税金であり、郵便貯金である—が流れ、アジアの「貧しい」村に、突如として高速道路がつくられ、ダムや港ができる。近代的ビルが貧困の真只中に出現する。民衆の生活と無縁なこれらの「援助」の最大の受益者は、進出する日本の企業である。民衆の頭の上を素通りしていくこれらの「援助」は、実は、日本の当該援助国の独裁政権にとっての「援助」なのである。

今、日本は、資源・市場を獲得、確保するために、アジアの国々への「経済援助」に力を注ぐと共に、「アジアの盟主」として、アメリカの傘の下でのアジアの軍事一体化の道を歩み始めた。光州市民の蜂起、フィリピン民衆の闘いは、この日本帝国主義のアジア支配の意図と真っ向から対立するものとしてある。日本政府は、軍事独裁政権へのテコ入れというかたちで、間接的に第三世界の民衆の闘いの圧殺に加担している。

私たちが、日々、肌身に感ずる日本国内の右傾化の流れは、日本帝国主義のこうしたアジア支配に対応した国内の体制づくりにほかならない。アジアの人々と真の連帯を築くために、私たちは、国内の右傾化の流れに抗して闘うと共に、「援助」の名にかくれてアジアの民衆を抑圧、搾取している日本資本の動きに注視しなければならないと思う。

「大東亜共栄圏」形成の意図は、新たな装いをこらして今、私たちの目の前にある。

1982年7月

アジアの女たちの会

原子力発電は、「核兵器」になる!!

—レーガンの核戦略とアジア—

近藤 和子

一九八一年、人類が新たな核時代に入ったと思わせるような事件が相次いで起った。まず一月には、フランスのラ・アーグ再処理工場の火災事故。四月には、日本の敦賀原発で放射能漏れ事故。その直後の六月には、イスラエルがイラクの原子炉を爆撃。そして、八月以降のヨーロッパでの反核運動の盛り上がり。まさに、八〇年代は人類と核文明が新たな時点に達し、私たちが核というものをどうとらえるかということをつきつけられた時代である。

再処理工場をめぐる状況

そのような状況のなかで、日本では、八二年に入っただけ、青森県の関根浜に第二再処理工場建設計画が報道された。現在、日本には東海村に再処理工場があるが、それでは膨大な核のゴミは処理できないので、その約七倍規模の工場を作ろうというのである。この計画は、日本を代表する大企業一〇〇社が「日本原燃

サービス」という会社を作り、日本政府のバックアップのもとに進めており、八〇年代最大のナショナルプロジェクトといわれている。

この世界最大規模の再処理工場は、一〇〇万キロワット級の巨大な原発四〇基分の一年間に出る核のゴミを処理できる位大きなものである。その危険性は大きく、大型の再処理工場が一日稼働するだけで、一〇〇万キロワット級の原発が一年間稼働した分の死の灰が出る。これは広島型原発の一〇〇〇発分の死の灰に相当し、そこから出てくるプルトニウムは、耳かき一杯で一〇〇万人がガンになると言われるほど危険な物質である。

ベクトル社とレーガン政権

ベクトル社は、世界中に一三〇位の大プロジェクトを持つ世界最大のエンジニアリング会社である。また、世界で唯一の核燃料サイクル産業会社といわれる原子力メーカーであり、

ウランの製練から、原発本体の建設、使用済燃料の処理、再処理、貯蔵廃棄物の処分、高速増殖炉まで手掛けている。アメリカで最初の商業用原発を作ったのはこのベクトル社であり、全世界で八〇基の原発を建設している。

そのベクトル社はレーガン政権の陰の立て役者といわれる程、レーガン政権の閣僚の中には、ベクトル社の人材が少なくない。例えば、ワインバーガー国防長官はベクトル社の副社長。社長は、シュルツというニクソン時代の財務長官で、大統領の経済諮問委員会の委員長を務めていた人である。ヘルムズというイランの大使で、元CIA長官も参与。また、元副社長のケネス・デビスは原子力部門の責任者であり、レーガンが大統領に当選した八〇年一月四日の翌日に来日している。その時に、日本の原子力メーカーや電力会社の社長、副社長と会談し、レーガン政権はカーター政権時代のような

原子力政策は取らない、といったいる。カーター政権の原子力政策とは核不拡散を基調とするもので、そのため、日本の東海村・再処理工場は軍事転用を防ぐという目的で長い間ストップされており、日米の原子力関係はこの核不拡散をめぐって非常にギクシャクしていた。しかし、レーガン政権はその政策はもう取らない、日本とアメリカは一緒にやって原子力開発の為に協力しましょう、と呼びかけてきたのである。

レーガンの極東戦略

レーガン政権が発足して、最初にやった対外政策は米韓首脳会談である。八一年二月にレーガンは韓国の全斗煥と会談し、安保協力・軍事援助は惜しまないことと、核エネルギー技術の供与を約束した。さらに、五月には日米首脳会談が開かれ、日米共同声明において、原子力の共同開発を訴えている。その中でレーガンは、日本の核再処理が日本の原子

力開発によって大変重要であることを強調している。つまり、レーガンの核戦略・極東戦略はアメリカを中心として、韓国・日本を結ぶ核同盟をめざす戦略である。

昨年の日米共同声明で、初めて、日米は同盟関係であるということを表明した。これは政治的な常識で言えば、軍事同盟であることはもちろんのことであり、世界の軍事情勢から言えば、日米の核同盟を意味する。共同声明以来、相次ぐ日米共同演習、防衛力強化・防衛費の増強など、日米関係の変化を見ればよくわかる。

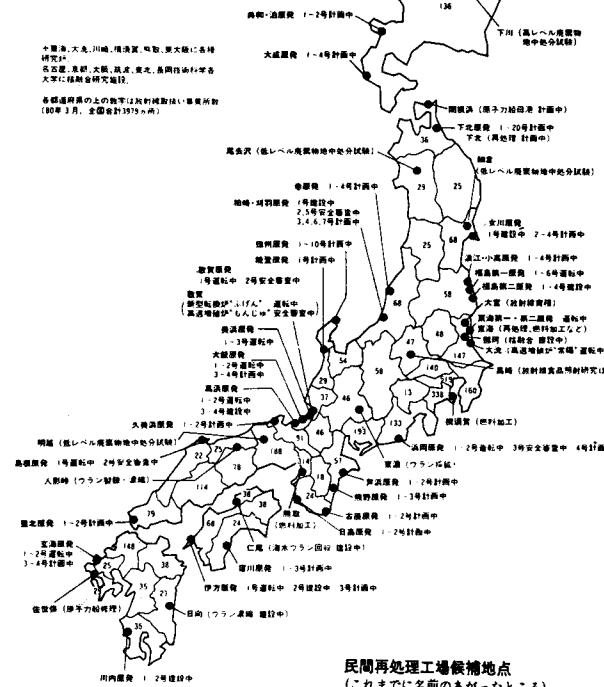
アメリカにすれば、日本は核戦略のパートナーである。だから、そろそろ核持ち込みというのを認めてもいいだろうというのが、日米共同声明の一つの意味ではなかったかと思われる。

アメリカは、その後のハワイ協議で、朝鮮有事に関する共同研究について持ち出し、朝鮮有事の場合には日本の一般の空港や港湾をアメリカ軍の自由に使用して欲しい、ということをお願いしている。この協議の結果は秘密にされているが、ちょうど一九五〇年の朝鮮戦争のときのような状態に、日本がなりつつあるという事は明らかである。

日本に核があるとかないとかいう問題は、このような状況のなかでは、もはや、ある種の虚構に過ぎない。確かに、日本に核はある。そして、朝鮮半島にも核はある。朝鮮半島には、現在、七二〇発の核弾頭の貯蔵庫がある。一九七五年、アメリカはベトナム戦争に敗れると、ポスト・ベトナム戦略ということで、核弾頭を朝鮮半島に配備した。あの光州蜂起で私たちの記憶に新しい光州市の近郊に、ミニニュークスと呼ばれる

●日本の原子力施設地図

「反原発新聞」より



民間再処理工場候補地点
(これまでに名前のあがったところ)

- 北海道・札幌市、青森県・八戸市、岩手県・盛岡市、秋田県・大館市、山形県・酒田市、福島県・福島市、茨城県・水戸市、栃木県・宇都宮市、群馬県・高崎市、埼玉県・熊谷市、千葉県・船橋市、東京都・三浦市、神奈川県・横浜市中区、新潟県・新潟市、富山県・富山市、石川県・金沢市、福井県・福井市、山梨県・山梨市、長野県・長野市、岐阜県・岐阜市、静岡県・静岡市、愛知県・名古屋市、三重県・津市、滋賀県・彦根市、京都府・京都市、大阪府・大阪市、兵庫県・神戸市、奈良県・奈良市、和歌山県・和歌山市、鳥取県・鳥取市、島根県・松江市、岡山県・岡山市、広島県・広島市、山口県・山口市、徳島県・徳島市、香川県・高松市、愛媛県・高松市、高知県・高松市、福岡県・福岡市、佐賀県・佐賀市、大分県・大分市、熊本県・熊本市、鹿児島県・鹿児島市、沖縄県・那覇市

小型の核弾頭が、今でも置かれている。レーガンが中性子爆弾の製造開始を決定したのは、八一年八月六日、三六年前にヒロシマに原爆が落ちた日であり、それを公表したのが、ナガサキに原爆が落ちた八月九日のことである。中性子爆弾は、一キロトン位しかない小型の水爆で、爆風制放射線強化弾頭という。つまり、原爆のときの巨大な爆風をコントロールして減少させ、人を殺せる中性子を何倍も強くしたものである。これを開発したコーエンというアメリカの学者は、一九七七年に「もともと、中性子爆弾というのは、朝鮮有事に備えて朝鮮半島で使うために開発したものである」と言っている。アメリカの核は、日本から、朝鮮半島から、アジア・太平洋の人々に向けて出撃するという状況に、今ある。アメリカは、八四年から、クルーズ・ミサイルという巡航ミサイルを極東に配備する。ミッドウェイの母港が横須賀にあるので、当然、日本にも帰港するだろう。現在、日本・韓国・環太平洋諸国を巻き込んだ一種の集団安保体制、つまり、ヨーロッパで問題になっているNATO(北大西洋条約機構)と同じようなアジア版NATOを作ろうという動きが、非常に進んでいる。三月の中旬

からは、リムパック82・環太平洋合同演習が米軍を中心とした五カ国(日本・オーストラリア・ニュージーランド・カナダ・アメリカ)で行なわれ、これと同時に並行して、米韓の定例演習、チーム・スピリット82が開かれた。アメリカのアジア・太平洋戦略は、このような形で展開している。日本の自衛隊は、もはや、国軍と言ってもいい規模でそれに参加している。

レーガンの核戦略

このような世界戦略の中で、一九八一年七月一六日、レーガンは対外的な原子力政策を打ち出した。その基調は、日本とか西ドイツなどの核不拡散に忠実な国に対しては、軍事転用につながる再処理やウラン濃縮などを認めるというものであり、さらに、アメリカは原子炉の輸出においても世界のリーダーシップをとるというものである。また、一九八一年七月末のニュースによれば、核戦力を強化するためのプルトニウム不足を商業用原発から出る核のゴミの中のプルトニウムで補おうという計画が暴露された。

つまり、原子力の平和利用と呼ばれるものから、軍事利用に転嫁しようという話が進んでいるのである。日本の原子力推進者たちは、原子力

の平和利用と軍事利用とは全く別のものである。と言っているが、レーガンは、ものの見事にそれを破った。これからは、原発の平和利用が軍事利用へと転嫁される時代になる。現在、アメリカには、七〇トン位の使用済核燃料が処理できなくて溜まっている。レーガンは、それを原爆製造に利用しようというのである。さらに、強いアメリカをめざすレーガンは、MXミサイル計画を発表した。それは日本の面積の三分の一くらいあるアメリカの砂漠地帯、ネバダとユタに地下トンネルを掘って、そこをトレーラに核弾頭ミサイルを積んで常に行き来して、ソ連の眼をよこし、ソ連が来たらミサイルを撃つというものである。しかし、「競馬場方式」と呼ばれるこの計画は、モルモン教の人たちの反対運動により、現在、中断している。

さらに、レーガンは、広島型原爆の二四〇〇発分の核弾頭を積める巨大な原子力潜水艦「トライデント」を就航させるとか、レーダーでは絶対に捉えられないステルスという爆撃機を次期戦略爆撃機として開発しよう、という計画を一〇月に発表している。

レーガン政権の危機

このような計画には、四〇兆円位

の軍事費がかかる。大体、アメリカ人が五年間で、一人につき六十七万四角担担しなくてはならない。それに對してアメリカ人が文句を言うのは当然である。アメリカの失業者は、約一〇〇〇万人。福祉を削られて、核弾頭を作られてはたまらないと、ついに、レーガンの強いアメリカをめざす軍事優先政策に對して、アメリカの国民が立ち上がったのは、八一年の九月一九日。「連帯デー」と名付けられたポーランドの「連帯」に連帯するアメリカの労働者の集会在ワシントンで開かれた。そのとき集まったのが、約五〇万人。ベトナム反戦運動を越えるような人が集まって、レーガンの労働政策に反対した。これがレーガンの凋落の第一歩であるが、国外に對し強い姿勢を崩さず、中性子爆弾の製造を決定し、限定核戦争の可能性があるということをくり返し言う。

このようなレーガン政権の強硬姿勢に恐れを抱いたヨーロッパの人々は、次々と立ち上がった。まず、一〇月一〇日、西ドイツのボンで三〇万人の反核デモが行なわれた。その後、一〇月二四・二五日に、ロンドンで二五万人、ベルギーのブリュッセルで二〇万人、ローマで三〇万人、パリでも二〇万人と、ヨーロッパ中で、およそ一〇〇万人近い人々が、

核・原発関係参考資料

- 「核の栄光と挫折」 時事通信社
- 「P.プリングルとJ.スビーゲルマン共著」
- 「核文明の恐怖」 コルティコット著 岩波書店
- 「危機の科学」 高木仁三郎著 朝日新聞社
- 「プルトニウムの恐怖」 高木仁三郎著 岩波書店
- 「スリミール島原発事故の衝撃」 高木仁三郎著 社会思想社
- 「原発ジブシー」 堀江邦夫著 現代書館
- 「日本の原発地帯」 鎌田 慧著 潮出版社
- 「原発・最後の賭け」 西尾 漢著 アンヴィエル
- 「原子力発電」 武谷三男著 岩波新書
- 「原子力帝国」 R.ユンク著 アンヴィエル
- 「死にすぎた赤ん坊」 時事通信社
- 「E.J.スタイングラス」 時事通信社
- 「石油と原子力に未来はあるか」 堀田 敦著 亜紀書房
- 「ソフト・エネルギー・パス」 A.ロビンズ 時事通信社
- 「エコロジスト宣言」 A.ゴルツ著 技術と人間
- 「モルロー」 ダニエルソン著 アンヴィエル
- 「マイクロシア」 斎藤達雄著 すずさわ書店
- 「素人の群島」 ミクロシア被爆民の記録 前田哲男著 時事通信社
- 「反原発宣言」 編集委員会 現代書館
- 「アジア・太平洋反核パンフ編集委員会」 日韓関係を撃つ 日韓調査会 社会評論社
- 「東西軍事力」 毎日新聞社 築地書館
- 「核兵器の包括的研究」 国連事務総長報告 連合出版
- 「原子力の経済学」 室田 武著 日本評論社
- 「放射線と人間」 館野之男著 岩波新書
- 「原発はなぜこわいか」 高校生文化研究会

反核・核戦争反対・戦域核配備反対
・という事でたち上った。そして、
オランダの五〇万人デモの直前に、
レーガンはヨーロッパの戦域核の制
限交渉をソ連と始めると発表し、つ
いに、ヨーロッパの反核運動に屈し
たのである。

レーガン政権に支えられた韓国の
全斗煥体制も、レーガン政権の危機
により、倒れることは必至であり、
日本も何らかの形で影響を受けざる
をえない。レーガンの核戦略は、日
本及び韓国を中核とし、ソ連に対処
するといふものであるが、必ずしも、
計画通りに進んでいない。

では、平和利用といわれる原子炉
の販売政策がうまくいっているかと
いうと、これもだめである。八〇年
には一六基の原発がキャンセル、今
年も、建設中の原発、四基が中止さ
れるなど、アメリカの原子力産業は
ガタガタで、ついに、アメリカで第
二位の原子力メーカーであるゼネラ
ル・エレクトリック社が、原子力部
門から撤退する。

現在、原発一基の建設費用は三億
円といわれるが、アメリカでは、一
兆円もするような原発が出てくるよ
うになり、経済的な面からいっても
アメリカの原子力産業はうまくいっ
ていない。

原発＝原爆

核がもっている本質的な問題は、
放射能の脅威である。人類は今だか
つて、放射能を封じ込める金属を発
明していない。核の平和利用といわ
れる原発でも、その本質は変わらな
い。原子炉の中で働く、下請け労働
者、いわゆる原発ジプシーと呼ばれ
ている人たちは、大量の放射能を浴
びている。つまり、原発は、そこで
働く労働者の何人かは必ずガンにな
って死ぬということを前提とした労
働の上に成り立っているのである。

電力会社はエネルギー危機キャン
ペーンで、原発がなくなったら、ト
ーストを焼けないとか、テレビを見
れないとか言っているが、みなさん
はトーストを焼くために、他人に放
射能を浴びせることがでるだろう
か。そこから出てくるエネルギーを
私たちは使えるだろうか。

もともと、原子力は自然を破壊し
て人間が作り出したものである。そ
れまで、人間は自然と共存し、自然
のエネルギーを使ってきた。しかし、
原子力は質的に全く違う。しかも、
自然を破壊しながら使うこのエネル
ギーは、たかだか電気エネルギーに
しかならず、石油の替りには絶対な
らない。

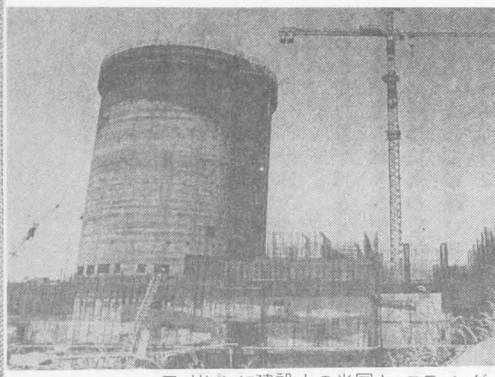
放射能に国境はない

には国境がないので、日本にも影響
があるということである。つまり、
日本と韓国とは、原発の安全性につ
いては、運命共同体であるというこ
とである。

アジア・太平洋の核の状況

韓国には、現在、運転中の古里原
発一基のほか、建設中のものが六基
あるが、そのうち四基はベクトル社
が建設したものである。さらに、韓
国は、一九九〇年までに一四基、二
〇一〇年までに一〇〇基の原発を作
ろうとしている。では、日本はどう
かという、計画では、二〇〇〇年
までに一五〇基の原発を作ろうとし
ている。まさに、原発列島である。

古里一号は二年余りの間に四〇回
も止まっている。放射能漏れも、ち
ようどスリーマイル事故と同じ頃あ
った。日本でも敦賀原発事故があっ



フィリピンに建設中の米国ウェスチング・
ハウス社製バターン原子力発電

たが、海をへだてた韓国の人々にと
って、決して無縁な問題ではない。
原発・核の問題に国境はない。日本
には、現在、運転中の原発が二四基
あるが、そこから出る核のゴミがド
ラム缶で三〇万本近く溜まっている。
そして、この核のゴミを処理する方
法が全然ないので、低レベルの放射
性廃棄物を太平洋のまん中に捨てよ
うとしている。これに対して、太平
洋の人々は怒り、反対運動を起して
いる。

フィリピンでも、現在、アメリカ
製のウェスチング・ハウス社の原発
がほぼ八〇％位完成しているが、マ
ルコス体制に反対する運動と同時に、
原発反対運動が、大きな政治スロ
ーガンになっている。

もう一つ注目して欲しいのは、南
太平洋の仏領・モロアで、今だに
核実験が行なわれているという事実
である。ミッチラン仏政権は、反対
を押し切って、モロアで核実験を
強行している。モロア近辺の人た
ち、主に三五歳以下の若い人たちは、
年に四〇人もガンになっている。フ
ランスは核実験は安全であると、そ
のような事実を隠していたが、こ
うした人類に対する犯罪行為は、今だ
に続けられている。

このように、特に太平洋はアメリ
カ、イギリスの核の実験場にされて

八〇年十一月、東京で第二回日韓
原子力産業セミナーが開かれ、日韓
の原子力産業の関係者が集まり、日
韓の原子力協力について話し合いが
なされた。そのときに、韓国側の原
子力推進者は、使用済み燃料の再処
理について、韓国には工場がないの
で、日本に再処理を要求してきた。
その際、日本で反対運動が強くて再
処理工場が建たないのなら、韓国に
工場を建設してもいいと発言し、さ
らに、地図を提出し、日本と韓国が
原発の安全性において運命共同体で
あるということを次のよう
に説明している。

「韓国における原発の安
全確保という問題は、韓国
の一般大衆にとって、特に
重要なばかりでなく、地理
的に言って、隣の日本人に
とっても重要な問題である。
なぜなら、朝鮮半島と日本
列島は近い。ソウルと東京
の距離は、約一一五〇キロ、
飛行機で二時間もかからな
い。韓国では、現在、古里
というところで一基の機が運
転中で、通算全部で四基の
原発がそこに建つ。古里と
釜山原発と日本の山口は、
大変狭い海峡をはさんでい
るだけのところにある。地

表1 ◎こんなに近い韓国と日本



図で距離を測ると、玄海灘の広さは
わずか二〇〇キロしかない。古里と
大阪の距離は約六〇〇キロ、古里と
東京の距離は約一〇〇〇キロである。
また、韓国と日本の地図を合州国に
重ねた地図(表1)では、ソウルと東
京間は、サンフランシスコとデンバ
ー間よりも短いし、さらに、サンフ
ランシスコとスリーマイル島原発近
くのペンシルバニア州ハリスバーグ
との距離よりも、三〇％も短い。と
いうことは、もし韓国でスリーマイ
ルのような事故が起きたら、放射能

きた。たとえば、ビキニは核の実験
場にされたし、現在は、核のゴミ捨
て場にされる。とにかく、核の一番
汚いところを押しつけられている。

ベラウの非核憲法

太平洋のこのような状況の中で、
アメリカから独立しようとしている
人たちがいる。人口わずか、一五〇
〇〇人のベラウ(旧パラオ)という
小さな島の住民たちが、昨年のはじ
め、アメリカから独立しようと、世
界で初めての非核憲法を作った。ア
メリカの圧力で今だに独立は達成で
きないが、核のゴミもダメ、核基地
もダメ、核の通過も許さないという
非核憲法を島民がみんな討論して
作り上げた。ベラウは「母系社会」
でもともと女の力が強いが、この非
核憲法を作るときも女たちが活躍し
た。そして、ベラウの人々は、この
非核憲法でアメリカの核戦略の中核
を撃とうとしている。

われわれのめざす反核運動

私たちは、すでに、アジア・太平
洋の人たちにとって、核の加害者に
なっている。そのような状況の中で、
日本人である私たちがめざす反核運
動とはどういうものだろうか。非核
三原則を守れ、ヒロシマ・ナガサキ
を忘れるなというスローガンでは、

もはやどうにもならない。

本当の反核運動、つまり、非核で
はなく、核を倒すという運動をする
ならば、アメリカの核の傘の下にお
ける非核三原則そのものを疑うと同
時に、日常の核である原発、特に、
第二再処理の問題を考えなければな
らない。

ヨーロッパの反核運動は、あれだ
け盛り上がりながら、モロアでの
フランスの核実験を止めることがで
きない。ヨーロッパの反核運動をに
なう人々には、第三世界に対する
視点が恐ろしいほど欠落している。そ
こに、アジア人であり、第三世界の
民衆と共に歩もうとする私たちの非
常に大きな使命がある。

最後に、ヨーロッパの反核運動は
アメリカの草の根運動と連動し、大
西洋反核同盟を作りつつある。それ
に呼応して、私たちも、太平洋反核
同盟を作りたい。特に私たち女が中
心となって。そのために、アジア・
太平洋の人たちと連帯して、一緒に
反核の闘いにたち上がろう。

(まとめ・飯田典子)



八二年三・二一平和のためのヒロシマ集会で、わたしたち戦争に反対する広島女たちの会は、集会に参加した人々に「買春観光反対」「フィリピンの女たちへの支援カンパ」を訴えました。

わたしたちが、三・二一に自分たちで行動するかどうか検討しはじめたのは、三月に入ってからのことです。とりくみとしては遅いスタートでした。それは、わたしたちの間に集会そのものに対するシラケムードがあ

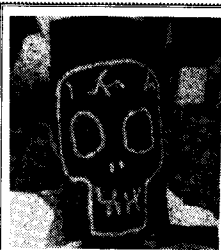
り変ってききました。さらに、集会場所が5ヶ所に分散され、内容も、さだ・まさしなど芸能人タレントを集めての歌と踊りの祭典となるにいたって怒りが爆発。「わたしたちのできることで、何か行動しよう！」ということになったのです。

さっそく集まり「今の日本とアジアの関係」を象徴する買春観光を告発したい。アジアの女たちと連帯する質をもった反戦の行動を起こしたい。ノビラまきだけでもいいからやりた

問題にしていこう。買春観光も以上のような観点からとりくむ——というような共通認識が次第に出てきたように思います。

そして、「どうせやるならノビラまきだけではつまらない。もっと具体的なことをするべきだ。企業を名指して抗議するとか、抗議のハガキを出すとか、アジアの女たちへの支援カンパを集めるとか……」という積極

れの中でいったいどれぐらいの人々が、わたしたちの訴えに耳を傾け、足を止めてくれるだろうか。又、他団体の紙爆弾が飛びかう中、わたしたち少数の訴えが、果して人々の目に触れるだろうか——等々、集会全体のイメージがつかみきれないの



平和のための

ヒロシマ反核集会報告

広島・アジアの女たちの会

ったからです。

「反核」も言わず「反原発」も言えない。「反核兵器」だけの「反核」集会。「反戦」は「核軍縮」のみの「平和集会」。今の日本の平和を守ろう国民運動」的にゆがめられた集会に、シラケていたわけです。

しかし、そのような集会に対してさえ、警察や市当局は集会場所の許可をおろさず、右翼の宣伝カーばかりが堂々と市内パレードをしかねない状況なので、シラケがだんだん怒

い」と話し合いました。

全体会議の提起を受けて、買春観光問題と自分自身の問題意識の重なる部分、重ならない部分、相互の認識の違いなど卒直に出し合いました。話し合いの過程で——アジアの女たちの犠牲の上にのったわたしたちの自立・解放はあり得ない。「反戦」といっても日本から兵器が、戦争がなくなれば、それでよしとするのではなく、現実のアジアと日本の関係を直視し、その搾取と収奪の構造を

／どうかあ……」男の参加者が多い集会で、反応はあまり期待できないのでは……」説明を求められてうまく説明がでるだろうか……」等々の消極的意見もかなりあって、全体として、いまひとつ盛りあがりにかけていました。それは、三・二一集会の形態が——二〇万人の人々が集まる、集会場所がそれぞれ離れた場所に分散する——という状況で参加者は固定されるのか、流動的に各会場をまわるのか。多勢の人々の流

ばをめぐって相互の意識性の違い、ことばに対する受けとめ方の違いが出て、なかなか一致をみまみせんでし

た。例えば、原案では「恥を知れ！」と入れてあったのですが、ある人は

「恥」という言葉に対して抵抗感がある。又、「経済侵略の分け前にあずかっているワタシたちが同じ日本人に恥を知れとは言えないのではないか」という意見。それから「アジアの民衆とともに」の「民衆」という

言葉について「民衆」という言葉を「人々」にしてはいけないのか、お定まりの政治用語みたいで抵抗がある」という意見に「スローガンを単に「人々」にしたら、たとえばマルコスも入ってしまうのではないか」という

反論が出る等々……。運動における表現手段としての《ことば》が問題になりました。むずかしいところ

です。言葉は、単なる伝達の手段であるばかりではなく、認識の手段でもあります。思想の表現でもあるからです。スツキリとは解決しなかったのですが一応ノビラをつくり、横断幕、ゼッケン、立看の製作をしていきました。広島大落語研究会O・Bの人が、寄席文字で「買春観光の図」、「日本の大罪」と書いてくれました。

三・二一、当日のとりくみ

9時—二つのグループに分かれ行動
Aグループ：広島駅前デモ
まき
Bグループ：平和公園まで立

看を運び、立看設置

12時—A・Bグループ共に、ノビラ情宣、抗議のハガキ、署名、カンパあつめ

15時—名古屋の女たちと「さだ・まさしコンサート」粉砕行動に

15時30分—「反戦・反核・反原発」集会場（独自集会）から、市民グループのデモ行進（六〇〇—八〇〇名、又は一〇〇〇名という

人もいる）が発発、平和公園内を行進、女性二人で横断幕を持って最前列へ

16時30分—独自集会の市中デモ行進へ参加（この時も、デモの最前列で女たちはガンバった）

17時30分—行動終了（署名者数三三六六人、カンパ額四九、一七四円、抗議ハガキ八〇枚）

18時30分—「反戦・反核・反原発」交流集会へ一名参加

三月二一日、わたしたちは、午前9時から広島駅前と平和公園でノビラ配り、又、平和公園内に立看板を設置して「買春観光の図」、「日本の大罪」をマンガで解説したもの、「フィ

リピンの女性グループからのメッセ

ージ（アジアの女たちの会ニュースレターより抜粋）などを掲載しました。反響は予想外に大きかったように（主観的？）思います。用意したノビラ、ハガキ、署名用紙はたちまちなくなってしまう、署名用紙は三回コピーしに行ったほどです。ノビラもなくなってしまう、立看の前に関心を持って集まった多勢の人々の要請に、充分応えられなかったのが、たいへん心残りです。

「ノビラをください。」（男性）、「スミマセン、もうなくなっちゃいました」（ワタシたち）「抗議のハガキ、記念に欲しいんですけど……」（女性）、「スミマセン、これつきりしかないのでかんべんしてください」（ワタシたち）「わたし、一ぺんいいからこれをしたかったの」と積極的

に訴え、カンパしてくる60代の女性。そして、中国大陸でワシと同じ年代の男たちが、現地の女たちにどんなむごいことをやっていたか……」と非惨な現場を目撃したと話す60、70代ぐらいの男性もいました。「東京でワタシの妻も戦争を許さない女たちの集会に参加しています」という

また、九州から来た部落解放同盟の女性（50—60代）は、「ワタシたちお金を使っ

て何のために今日、広島に

来たのか、歌と踊りのお祭りでは、学ばうにも学んで帰るものがない。でも、そんな中であなたがたのとりくみをみて、ほんとうに良かった。頑張るなさい。」と、激励してくれました。



故大平首相が七八年、政權の座についた時、「環太平洋構想」が語られ、鈴木首相になってからは「経済安保」が強調される。こうした政策がでてきた背景には、ダイナミックな世界の動きがあった。

企業が、アジアになだれを打って入ってきて主要な地下資源を押えていったのに比べ、日本は繊維、家電、食品、雑貨部門を中心に中小規模投資を、韓国・台湾・東南アジアに集中させた。日本の進出企業は本国の親会社の部品を生産する下請工場、あるいは原料・部品を本国から持ち込んで現地生産をするというパターンで、主に現地の安い労働力の搾取

どこまで進む 日本の経済侵略

七四年には国連で「新国際経済秩序」の樹立に関する宣言が採択されて、資源ナショナリズムの高揚、第三世界の台頭が顕著となった。日本にとっては七四年はASEAN訪問中の田中元首相への反日暴動の年として記憶されている。

同じ太平洋圏にあるオーストラリアも、イギリスの圧倒的な支配をぬけだし、通貨をポンドからオーストラリアドルに切りかえるとともに、太平洋の方に向きをかえ、日本とは資源の供給国として密接な関係をもつようになってきた。このような情況の中で、日本はその安定成長を維持するために、従来のダーティなイメージ、—安い労働力を使い製品を売りまくる、資源をタダ同然でもって帰る—を修正する必要にせまられた。その具体的な政策が「産業構造の長期ビジョン」である。

◆産業構造の長期ビジョン

をものすごく食う産業で、石油シ
ツク以後、安価な石油とボーキサイ
トが手に入らなくなったため、日本
の製練工場で生産されるアルミの地
金はカナダの価格の三倍もの高値と
なり、たちまち不況産業となってい
った。そこで三井化学がブラジルに
住友化学がヘゲモニーをとり、イン
ドネシアにアルミ製練工場を作った。
インドネシアのアサハン・プロジェクト
では、最初は資本参加をして、
インドネシアの安いボーキサイトと
水力を使い、生産されたものを全部
ひきとろうという予定だった。ここ
ろがインドネシアのボーキサイトの
採掘権は、欧米のメジャーに握られ

環太平洋構想とは何か

イリピン・中国・韓国・台湾 紙バ
ルプはブラジルというように、同様
の構造ができあがっていった。

大平政権が誕生する一カ月前、七八年十一月、財界のシンクタンクと称される野村総合研究所の発行する『財界観測』に、「環太平洋構想」に関する論文が掲載された。これはアメリカが世界のトータルリーダー・日本とドイツは、サプリーダーという図式に見られるような世界支配構造をしめしていた。環太平洋地域では日本をサプリーダーとするというと、かつての大東亜共栄圏を連想しがちだが、大東亜共栄圏が武力で太平洋地域を勢力圏にいれようとしたものと違い、環太平洋構想は資本と商品貿易の流れによって形成される経済圏構想である。しかもこの構想は野村総合研究所で単独に考えだされたものではなく、アメリカのブルツキングス研究所、オーストラリア国立大学、ニュージーランドの国際問題研究所などと連動して検討が進められたものである。先進国の経済不況と第三世界の政情不安に対応し、軍事を含めた世界経済支配体制を確立していくという帝国主義的な八〇年代世界戦略の一環として、環太平洋構想は位置づけられる。

するというナショナルプロジェクトへと変わってきている。

鈴木首相が提唱する「総合安保」は、このような考え方がさらに進められ、「軍備で守るものを経済力で守る」ことが全面的に主張されるようになる。その柱が、エネルギー安保であり、食糧安保である。

ている。エネルギー安保の一つの眼目は、石油の消費量を減らすことであるが、この間、鉄鋼、アルミの不況もあつて、石油の消費は急激に減っている。

さらに注目しなければならないのは食糧安保である。日本は過去一貫してそのほとんどを輸入に頼る食糧輸入国として知られてきた。日本の高度成長は、国際分業によつて農業を切り捨てて、工業国として適進するところにあつた。それが今、食糧に注目し始めたのは何故かといへば、それは、「自給」のためではなく、その戦略的重要性に他ならない。地球

「世界から」No.12より

オランダ買春観光客への抗議

と抗議文を用意して待ちうけていた。抗議文は、「バンコク二百年祭に乗じて買春観光を企画したことは許せない。買春観光はタイ社会における男女不平等と経済発展の遅れ、特に買春観光客が決して目にするものではない農村の貧困の上に立脚したものだ。旅行社はタイの女性に収入をもたらしている」と傲慢にも主張する。確かにそのとおりである。しかし旅行社の利益に比べれば、女性が手にするお金はほんのわずかである。旅行社は「国際ヒモ」にはかならない。さらに、買春観光は人身売買を助長し、いたいけな子供でさえも売春婦

バンコクのグループは、「タイランド・エックスプレス」のパンフレットをしめし、二百年祭は買春観光とセットで宣伝されていると語った。タイでは一九八一年一月、鈴木首相のASEAN訪問の最中、日本大使館前で抗議行動をおこしたが、その後も、連絡をとり合い売春婦の組織化、一九八二年三月八日、国際婦人デーには、買春春をテーマにしたセミナーを開催するなど地道な運動を続けている。ドンムアン空港での抗議行動の後、タイ・オランダ両国政府に抗議文が送られた。(H・T)

ようと決定。タイで最も暑い三月の

$$\begin{pmatrix} H \\ \cdot \\ T \end{pmatrix}$$

女子労働者の新しい希望

ところが、八一年一月になって、タイ労働者は再びストライキ権をもつことを許され、新しい希望をえた。現在まで、労働条件の改善をもとめる女子労働者の闘いが次々とおこっている。八一年三月、先頭をきつて立ち上がったのがナムチャイ・テキスタイルの女子労働者。賃上げ、労働条件、福祉の向上を求める一四項目の要求を会社側につきつけ交渉したが、話し合いは決裂した。組合のリーダーたちは、既成の労働団体に頼らず、自分たちのやり方で解決しようとした。タイで最も暑い三月の炎天下、工場からバンコクの庁舎

部を獲ち得た。

ナムチャイ・テキスタイルの女子労働者の闘いは、他の工場で働く女子労働者を勇気づけた。六月には、タイ・パトラポーンの一二〇〇人の織維女子労働者のスト。九月には、ヤングリー・テキスタイルの九〇人のスト、アメリカ系電子会社・ハニウエルで働く女性たち五〇〇人のストと続く。彼女たちは、会社側のヤクザを使つての脅迫やリーダーの買収にもめげず、様々な戦術を使つて闘い、いずれも労働条件の改善を認めさせている。

(H・T)

$$\begin{pmatrix} H \\ \cdot \\ T \end{pmatrix}$$

貧困と抑圧の最大の犠牲者は 女性と子どもたち

シンガポールにて 松井 やより

アジア特派員として、シンガポールへ赴任して、早や半年近くになりました。マラッカ海峡の青い海に囲まれた緑あふれる島に、真新しい高層ビル群が立ち並ぶ小さな都市国家ですが、人々はただひたすら金もうけに精を出し、経済発展のみを追及しています。四〇年前、日本軍がこの島を領し、何万人という中国人を虐殺した血塗られた歴史をまよえに、この国の政府はいま皮肉にも「日本に字べ」キャンペーンに狂はんしているのですが、日本人として複雑な思いにかられます。たしかに、経済発展はめざましく、日本につぐ所得水準で、いわゆる「アジア的貧困」は過去のものとなっていますが、しばらく住むと別の顔が見えてくるのです。まず何よりも二十年以上続いたワンマン政権のもとで、窒息しそうにきびしい管理抑圧体制だということとです。政府はどんなことでも思うままにやっています。今年になつてからだけでも、老人を扶養すべきだということお達しが出たり、学校で儒教教育をやり「忠孝正義仁愛廉恥」の八大徳目を教えるという命令が出たり、日本の女性のように、女性は家庭に入って子育てをやれという号令がかかったり、最近では、政府のツルの一声で、新聞（英字紙、華字紙）が整理統合されてしまつたり、とに

かく政府の意のままに事が進められるのです。こういう息がつまりそうなのです。な恐しい警察国家ですから、人々は政治には固く口を閉ざし、もっぱら商売に励むということになります。

いきおい、文化的な活動も低調をきわめ、台湾、香港など中国社会からの輸入文化と、今でも敬愛しているイギリスを中心とした西欧からの舶来文化が幅をきかせ、シンガポール独自の民族文化など育ちようもありません。何しろ、政府は、英語国になることに踏み切り、人口の七割以上が中国系ですが、子どもたちの九割は英語教育の学校に通っているのです。政府は一応「中国語を学ぼう」というキャンペーンはやっていますが、これはあくまで形だけで、英語ができなければまともな就職もおぼつかないという現実があるので、す。こういう言語政策の問題と、金にならないことには関心が無いという実利主義の風土で、文学や芸術は全く不毛の地です。学問も、学生は金もうけにつながる経営学部などには殺到しますが、人文関係は人気がなく、教師は、機会があればビジネスの世界に転身してしまうのです。

一体何のための経済発展なのか——日本で高度成長の時代に問われたことを、シンガポールでは問う人さえほとんどいない状況なのです。発展

途上国から中進国へ一貧しさからの解放への道は、シンガポールの道、あるいは最近「韓国に学べ」といっているように、韓国の道、つまり、恐るべき人権抑圧独裁体制なしには達成できないものなのか―根本的な疑問を抱きつつ、経済的成功を自負するこのミニ国家の行くえを見守っていきたいと思います。

民衆に届かない援助

こんな拝金主義の退屈きわまりない島から逃げ出したいということもあって、アジアの国々をつとめて旅することにしています。すでに、スリランカ、インド、タイ、バングラデシュ、カンボジアの順に五カ国をまわり、これからマレーシア、ベトナムを訪問します。

各国で、それぞれの国が直面している深刻な問題にぶつかり、そしてもちろん女性の状況にもふれることができました。各国ごとのくわしい報告は次回以降にしますが、今回は五カ国を回って気づいたことを、とりあえず大ざっぱにお知らせして、一緒に考えて頂きたいと思うのです。

とにかく各国に共通しているのは、貧しいということです。そして、現われ方は国ごとに違った形をとっていますが、貧しさの最大の犠牲者は、どの国でも女性であり、子どもた

民衆に届かない援助

途上国から中進国へ一貧しきからの解放への道は、シンガポールの道、あるいは最近「韓国に学べ」といっているように、韓国の道、つまり、恐るべき人権抑圧独裁体制なしには達成できないものなのかー根本的な疑問を抱きつつ、経済的成功を自負するこのミニ国家の行くえを見守っていきたいと思います。

こんな拝金主義の退屈きわまりない島から逃げ出したいということもあって、アジアの国々をつとめて旅することにしています。すでに、スリランカ、インド、タイ、バングラデシュ、カンボジアの順に五カ国をまわり、これからマレーシア、ペトナムを訪問します。

各国で、それぞれの国が直面している深刻な問題にぶつかり、そしてもちろん女性の状況にもふれることができました。各国ごとのくわしい報告は次回以降にしますが、今回は五カ国を回って気づいたことを、とりあえず大ざっぱにお知らせして、一緒に考えて頂きたいと思うのです。

とにかく各国に共通しているのは、貧しいということです。そして、現われ方は国ごとに違った形をとっていますが、貧しさの最大の犠牲者はどこの国でも女性であり、子どもた

ちなのです。アジアの最貧国の一つ
バングラデシュへは、キリスト教関
係の団体が開いた「農村女子労働者
セミナー」に参加するため、今年（八
二年）二月下旬から二週間余訪れま
した。まず、ジャマルプールなど北
部の農村を回ったあと、南部のバリ
シャルという農村で、セミナーに一
週間近く出たわけです。首都ダッカ
も、スラムだらけという感じでした
が、ジープで道なき道を走って回っ
た村々で目にしたのは、栄養失調の
子どもたちでした。やせ細ってぐっ
たりしている子ども、おなかパン
クしようにふくれて手足は細く、目
ばかり大きい子ども……各地に栄養
失調児センターがありました。土
気色をした手のひらに入ってしまった



スリランカ・コロネポ郊外のカタナヤケ輸出加工区の日系工
場で働く女子労働者たち（1981年11月撮影）

そんな赤ん坊が小さなベッドで死に
かけていたり、少し大きい二、三才
児が二〇人ばかり弱って動き回る元
気もなく、床の上にじっと石のよう
に坐っている光景は惨憺でした。
五才になるまでに、四人に一人は
死んでしまう恐ろしく高い乳幼児死亡
率、国民の八割が文盲で、農村では
学校へ行っている子どもは、一、二
割という低い就学率……。ききんや戦
争、内乱などが起こっていて難民が
出ている状況なら子どもたちが飢え
るのも不思議ではありませんが、平
常時にこうなのです。過去の植民地
支配、現在の不正な土地所有制度
（半分以上が土地なし農民）……。最
貧国ということ、世界各国から巨
額の援助がぎっしり詰まっていますが、
土地政策でもやらなければ権力を持
つ人々の私腹を肥やすだけで、草の
根の人々にはほとんど届かないので
す。

こうした貧困状態で、最もシワ寄
せを受けているのは、貧しい母親た
ちです。女性は外へ働きに出ないと
いう回教の掟などかまっていられず、
日雇い農業労働者として働きに行く
のですが、川の多い国で川向こうの
地主のところへ通うのに、渡し船代
を払うことができず、泳いで渡る女
性もいると聞いて、胸ふさがれる思
いでした。まるで、堀立小屋のよう

な農家がはてしなく点在する村々や、
第二の都市チッタゴンのどこまでも
続く悪臭に満ちたスラムで、一日一
食しか食べずに、青い顔をしてここ
らをじっと見つめる女たちの姿が、
今も私の目に焼きついていきます。

売られてきた子供たち

今年（八二年）一月末訪れたタイ
では、児童労働が問題になっていま
した。貧しい東北タイから、わずか
一〇才、一〇才の子どもたちが、バ
ンコクに売られてきて、零細工場で
こき使われるのです。たとえば、昨
年秋、若いタイ人で作っている「子
どもの権利を守るセンター」の努力
で救出されたキャンディ工場の女の
子たちは、朝から夜半まで一日一八
時間、コンクリートの床の上に坐っ
て、一〇〇〇個のキャンディを包装
する作業をさせられていたのです。
手入れされたとき、足がなえてしま
って歩くのも不自由になっていた子
どもや、過労で倒れて寝ている子ど
ももいたのです。児童労働は発展
途上国に普通の問題で、ILOなど
の国際機関もタイでシンポジウムを
開いたりしていましたが、タイ労働
省が今年に認めただけでも一四才以
下の児童労働者は六万六千人、しか
し、実態はこれを大きく上回るとい
われています。

インドの女たち

インドは、数千年の歴史のくびき
に喘ぎ苦しんでいるといえましよう。
ここでも最大の被害者は女性である
ことを知りました。昨年（八一年）
十二月、ニューデリーで開かれた国
際環境教育会議に出席することが目
的だったため、北インドだけしか見

なかったわけですが、二週間余の滞
在中、まさにショックの連続でした。
インドの女性グループはずいぶん沢
山あって、様々な活動をしていまし
たが、たとえば、レイプ（強姦）の
問題は共通の闘争目標でした。（機関
誌9号参照）とにかく、あまりにも
日常茶飯事のように強姦事件が起こ
り、加害男性は、警官、軍人、役人
といった権力のある人々、被害女性
は低いカーストまたは不可触民が多
いのです。下層の女性たちは、犯そ
うが、殺そうが、侮辱しようが虐待
しようが意のまま、人間扱いされて
いないのです。訴え出て保護しても
らおうと警察へ行けば、やられてし
まうのですから話になりません。も
う一つ、ダウリ（持参金）問題で
女性の焼身自殺が絶えないと聞
いて、やはり驚きでした。インドで
は、結婚するとき花嫁側が持参金を
花むこ側に払うのですが、その相場
がはね上がる一方で、娘を嫁がせる
父親は、借金してまで工面しないと
いけないのです。汚職の一因は持参
金、とまでいわれるほどです。結婚
後も、夫側は妻の実家に「冷蔵庫を
よこせ」とか「車を買え」とか要求
を続け、応じないと妻を虐待し、妻
は耐えられなくて自殺するというの
です。ニューデリーだけで毎日のよ
うに「持参金自殺」があるといわれ

ています。娘に多額の金を払えば、
息子が結婚するとき、こんどは相手
から取り戻そうとする。まさに悪循
環ですが、この悪しき風習は根が
こそすれ、廃止など当分考えられな
いということなのです。女性のグル
ープが勇敢に持参金粉砕を唱え、キ
ャンペーンはしていましたが……。

そのほか、ヒンズー寺院に娘を捧げ
て聖なる売春婦にするデバダシ制度
を告発しているグループもありまし
た。また、女性を悪名高いボンベイ
の売春地帯に売り飛ばす大がかりな
売春あつせん組織が問題になってい
ましたし、家庭のトラブルで家から
追われた女性のためのかけ込みセン
ターへかけ込んだら、職員にレイプ
されたり、売春を強要されたり、持
ち物を全部とられたりという、信じ
がたい話もあり、ある女性グループ
は「かけ込みセンター」の実態調査
に取り組んでいました。これらはイ
ンドで知った残酷物語のほんの一部
に過ぎませんが、とにかく、母性に
対してあまりにも苛酷な社会、文化
で、これはいまだに牢固として存在
し続けているカースト制度と深い関
係があることを知りました。まさに、
インド人と結婚している米国女性が
「この牢獄を粉砕する」という本を
書きましたが、女性にとってインド
は牢獄以外の何ものでもありません。

インドに憧れるファンはこういう女
の地獄を見ないのでしょうか。

スリランカの女子労働者

インド亜大陸の南東に、涙のひと
しずくのような形をした緑の美し
い島スリランカがあります。この
国には昨年（八一年）十一月から十
二月にかけて「東南アジア輸出観光
産業女子労働者セミナー」に出席す
るために、三週間滞在し、首都コロ
ンボから、近郊の漁村、古都キャン
ディ周辺のティー・プランテーション
など回りました。とくに、茶の葉
を摘む女子労働者の貧しい生活は想
像を絶するものでした。日本の「炭
住」に似た長屋——ロングハウスに
住んでいます。泥で固めただけで
屋根もろくになく、電器もない真っ
暗な土間に一家十人が雑居寝という
ような生活です。朝四時には起きて
プランテーションへ行き、夜まで十
時間以上働いて日給ハルビー（八千
四）十一歳から茶を摘んでいるとい
う今年四十九歳の女性は、苛酷な労
働に老け込んで六十代に見えました。
こういう貧しい地域の余った労働
力を吸収するためと称して、自由貿
易地域——輸出加工区といわれる工
場地帯がコロネポの国際空港近くに
オープンしていましたが、たしかに
農村より現金収入は多いとはいえ、

児童労働でさらに深刻なのは、女
の子が売春婦にさせられる問題です。
BBCが「ホワランボンへの片道切
符」という児童労働をテーマにした
テレビ番組を作りましたが、タイ政
府から放映禁止になったので、ビデ
オを学生たちや市民団体が内輪で見
ていました。ホアランボンというの
はバンコクの中央駅の名前で、日本
で言えば上野駅を考えて下さい。田
舎から売られてくる子どもたちを追
っているのですが、その中で、少女
売春婦の報告はショックでした。特
に、金持の年輩の華僑がなるべく若
い少女を求め、生理が始まる前の女
の子を珍重し、旧正月が近づくころ
には、相場がはね上がるというので
す。そして、年齢が高くなるにつれ
て、取引価格が下がるというので
す。タイでは、売春の異常な肥大が
問題になっていたが、このような児
童売春の実態を初めて知り、その残
酷な人権侵害に暗然としました。

近代的管理体制に適應できない農
村出身の年若い女子労働者にとって
は苦役にひたしい工場労働です。

このように、イギリス植民地時代
からのティー・プランテーションで
茶を摘む女たち、新しい輸出加工区
で機械と格闘する女たち……。スリ
ランカの女子労働者たちの現状を調
べ、相談相手となっている女性グル
ープも生まれていました。「各国の関
心女性たちと連帯をとり合いたい」
という彼女たちの熱意に心を打たれ
、何らかの形でつながりを持ちたいと
思いました。スリランカに限らず、
どこの国の女性たちからも、「日本の
女性たちとも交流したい」と真剣に
いわれたのです。とくに、それぞれ
の国で、信じていたいような悪条件の
もとで、闘っている女性グループと
は、何らかの形で、きずなを作っ
て行きたいものです。

そのために、私たち日本の女とし
て、何をなすべきか、深く考えさせ
られ、いまだに、明解な答えを見出
せないでいます。しかし、とにかく
まず、彼女たちのことを知ることが
重要で、そこから始める以外ないと思
います。



座談会

アジアを旅して

出席者
草野 いづみ
手塚 洋子
五島 昌子
司会 海愛子

経済侵略 現場からの報告

司会 今日、出席していただいた方は、昨年から今年にかけて、アジアの国々を旅行されてきたわけですが、まず、その印象からお話して下さい。

草野 一九八一年に初めて東南アジア、タイに行った。最初にワアーツと圧倒されたのは日本の商品の看板広告。ソニーとかナショナル、リコーなど日本ではみられないような大看板がそびえている。日本の商品、車が街を制圧している感じ。一方、そういう先進的なモノがあふれている中に極度の貧困がある。観光客や、きれいに着かざった人でごった返す繁華街の路上に、この人今日食べなかつたら明日死ぬんじゃないかと思うほどゲッソリやつれ果てた乞食が並んでいる。子供の乞食もたくさんいる。そのアンバランスな風景が、まずショックだった。

司会 草野さんは初めての旅行で大

変ショックを受けたようですが、手塚さんは、二度目で、大分印象が違うのではないかと思います。手塚 なんか二年前より日本製品が多くなったような感じがします。看板なんか町中の目につくところに大きいのがどんどんたっているという状況で、そういう意味では日本の第二次投資ブームが進行していると思った。また、人々はますます貨幣経済の中に取りこまれていくという気もした。物価もずいぶん高くなっていて、タクシーは二年間で二倍以上になっていて驚いてしまった。子どもたちの働く姿もふえたようにしたね。でも人はほんとにたくましいと思うな。

草野 電気も通っていないような田舎の小さな市場の屋台の売り場に味の素があり、花王のシャンプー、リンスがおいである。中小企業の製品もさまざまにある。「サクラ」なんていう髪止めとか。都会では資生堂やカネボウの化粧品はデパートで売っていて、それもむこうの人にして

みたらすごく高い値段で、たとえば資生堂の旅行用ミニ五点セットが九五〇バーツ(タイ)、つまり約一万円。だから買える層が買ってステータスシンボルになっている。でも田舎では資生堂なんて売ってなくても小さなメーカーの安い口紅なんかが入っている。

手塚 そして、田舎の停留所にはそういうのを買って化粧をしている女の子たちがたまたま入っている。別にバスに乗るという訳ではないけれど集まってしゃべっている。顔なんか真っ白という感じ。

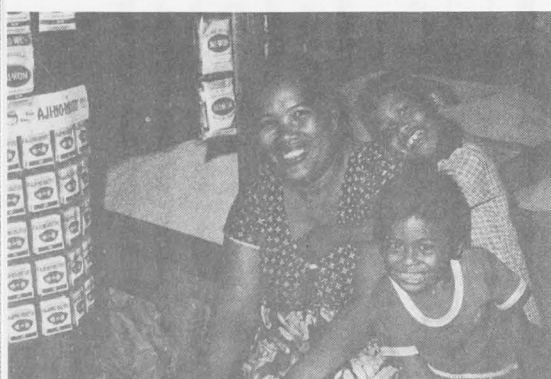
草野 そこが全然水道もないようなところ。衛生設備もない。山の中でポツポツと集落があつて、人間の姿もたまにしかみかけないような自然の中にすっぽり入っている土地に伝統的なタイの暮らしを片方では守って生活している女性が、たとえば着ているものはパカマで、顔だけきつちり濃い化粧をしている。化粧品があたり文化の象徴のように思わせ

日常生活の中で必要としているものかどうかは考えていない。むしろ日常性を破壊することに拍車をかけている。日本の資本の要求と、その国の体制「独裁政権」の要求が一致している。このことは、そこに住む人々の人権抑圧に手をかしていることだと思ひます。

買春観光と経済侵略と

司会 私たちの会は、この間買春観光反対の運動を続けてきたわけですが、東南アジアを旅行していても買春観光の光景を目にするとはいいます。タイでは現在どのようになっていますか。

手塚 タイの国家収入の第二位を観光収入が占め、観光客はマレーシア、日本、西ドイツの男たちが圧倒的に



多いんですね。そんな中で今、タイでは児童労働が大きな問題となり、その中に少女買春の問題が含まれている。十才からはじまり一〇代の少女たちが、東北部や北部の貧しい農村地帯から売られてバンコクを中心に売春をさせられています。バンコクのパッポン通りでは「さゆり」「ストリップ」など日本語で書かれた看板が並び日本人はホテルで右往左往して現地あつせん人の世話する女を待っている。私が大阪から飛行機に乗った時「いや、女房にいったらコンドームをもたせて、がんばってねって言われましてね」という男たちといっしょにバンコクについていたんだけど、送り出す女の状況も大きな問題だと思ひます。

草野 日本からの観光客に関しては、表面的には以前のようなあからさまな団体買春ツアーは減ったと思う。でも形を変えて実質的には同じ状況がつづいているのではない。最近では、何度も訪れてアジアを旅慣れた男たちがふえているように、バンコクで泊まったホテルにもそのたぐいの二人連れがいて、ずいぶんバンコクに詳しいらしく、今夜はどこの店に行くの、どこそこにはいい店があるのとしやべっていた。観光客連の人の話でも、買春ツアーは地下に潜っているという。目立たない形、法

に触れない形、大手旅行業者が手を汚さない形でおこなわれている。これからの反対運動が問われるところではないか。買春観光の構造を根気よく問いつめ、言い続けなければならぬと思ひます。

司会 買春観光反対の動きが出ると、旅行業者のやり方はより巧妙になつてきて、なかなか実態がつかみにくいのではないかと思います。アジアの国で、実際に反対運動をやっている女性と会って、五島さんは、今後の日本における運動をどうやっていこうと考えていますか。

五島 昨年一月、鈴木首相がASEAN諸国を訪問、マニラに着いた日に「買春観光に反対する」集会がセントポール・カレッジというミッションスクールで開かれました。戒厳令下のマニラで千人近い人々が集まったことでも大変なことでした。日本人が買春観光でどつとおしよせてくる状況は、日本に占領された第二次世界大戦の時の状況とどこががうか「これはまさに日本帝国主義の再侵略だ」と激しい言葉でアピールしていた女性がいました。右手が肩のつけ根から無く、右眼が深いきずになつてつぶれている。七才の時、日本の兵隊に刀で首を切り落され、目の前で両親を虐殺された体験を持っている。集会後、コーヒーハウスで

インドネシアの日本商品の広告



る入り方をしているのではない。都会の高級デパートにおいてあるのと同様なもの、バンコクの街で着かざった人と同じ顔を田舎にいても手に入れることができるということ、買ってしまう心理をあおっているのだと思ひます。

司会 今、二人のお話のなかではつきりしているように第二次海外投資ブームといわれる今日、日本企業の海外での活動に拍車がかかっているのではないかと思います。七三年秋のオイル・ショック以降、おちこんだ海外投資が、七八年には完全に回復し、投資残高も増加の一途をたどっています。何度かアジアの国々を旅行をしてみても、こうした企業活動の現状に対して、五島さんはどのような印象をもたれましたか。

五島 投資ブームと言われるものの中味が問題だと思ひます。貧しく、遅れた国々に対して、先進国である日本が援助するという格好をとりながら、本当にその国に住む人々が、一緒にあった時、とても私には親切にしてくれて、その彼女のやさしさに対して私は本当に辛かった。アジアの人々が日本に対して持っているさまざまな体験の中から生じる怒りに対して、私たちがどう答えられるのか。

軍事侵略から経済侵略へ

司会 五島さんの話のなかにもありましたが、日本人の買春観光の問題を考えていくと、どうしてもかつての「大東亜共栄圏」の名でアジアの国々を支配した時代のことに行きあたざるをえない。買春観光にも、経済侵略にも、日本統治時代のアジアの影が見えかくれるのですが、戦後三十七年、私たちは、かつて支配したアジアのことを忘れてきたのに対して、アジアは三十七年前の日本の体験を忘れずに「経済大国」日本と接しているのではない。

手塚 そうなんです。私たちが行ったタイのカンチャナブリというところは、かつて日本軍がタイとビルマを結ぶ泰緬鉄道が通っていたところである。日本がビルマのインパールを侵略するためにつくった鉄道で、そこで会った人がワコールとかコーセー、カネボウなどの製品を売っていた。彼はカンチャナブリの顔役で、かつての日本軍のことも知っている。

そして、今だに日本の旧軍人たちがつながりがある。日本軍はよかったという。そういうつながりが今だにあるというのはショックだった。戦争のことをきちんと考えなければという契機になった。

草野 侵略された側でも二つに分かれているのね。かつて日本軍と結びついて、いいおもいをした人たちは今でもそのつながりの延長上で利益を得ている。彼は私たちが日本人と知ると、日本軍からもらった日本刀や無線器、日の丸の旗などを持ってきて見せた。一緒にいた別のタイ人は、タイにもいろいろな人がいるって勉強になったでしょっていった。侵略といっても一枚岩ではなく巧妙だし、された側も同様ではなくいろいろな側面がある。そこもきちんと押さえないければ、現在の日本とアジアの関係を衝くことはできないのではないだろうか。

手塚 私も今の日本の右傾化の状況の中で、自分の運動をやっていく時、そういうレベルでアジアにおいて交流がやられているってことを視野に入れなければならないと思う。ここ数年、泰緬鉄道建設に関係した人たちが、あの鉄道は日本の当時の最高技術をもってつくったので記録として残して置きたいと、次々と本が出版されている。日本の右傾化の状況

に、かつての大東亜共栄圏の構想がもう取りこまれていくんじゃないか、また同じことがくり返されるのではないかとタイの旅から帰って感じている。

司会 かつての東南アジア支配、そして、今、進行している買春観光、経済侵略、アジアの人々との連帯を求める私たちの思いとかけはなれて、事態はますます悪い方向に向かっているように思えてなりません。アジアを旅行してきて、今、私たちは何をしなければいけないと思いましたが。

五島 アジアと日本のかかわり方をしっかりと見据えていくこと。私たちが見てきたことはほんの一部分にすぎないと思う。アジアの人々が日本をどうみているのか、日本の敗戦前と現在とは、アジアの人々にとって少しも変わらない姿でしか見ていないのではないかしら、天皇の日の丸の軍隊で侵略され、現在は日の丸を先頭にした資本と観光旅行に侵略されている。鉄砲のたまの変わりに、日本商品があふれている。

そういう状況の中で私たちに何ができるのか、つくづく日本人であることがイヤになってしまっている……民衆レベルでの連帯が、まだまだ小さな、細いつながりでしかない、でもでき始めていることに希望を持っています。

い。お互いに知り合うところから始めるしかないと思う。

草野 実際にタイに行つてその中に身を置いてみて、あふれる日本の商品を見、かつての戦争のあとをふみしめて、今、日本人である自分がいつか生活している足の下のしくみが実感としてつかめたように思っただ。何で日本が今「豊か」なのか、その繁栄はどこをくいのものにして成り立っているのかということに自分につきつけて考えるようになった。

タイで出会った若いグループも、日本などいわゆる先進国の経済侵略を拒否するの、まず、押しつけられた価値観をしりぞけるため、日常生活の中から、例えば味の素は使わない、合成洗剤は使わないという姿勢をとり、自分たちの暮らしをつくってゆこうとしている。彼らに、「あなたたちは日本で今、何をやっているのか」と問われた。連帯とは、まずそれぞれのいる場所のできることをやっていくことに始まるのではないのか。

手塚 私は女の状況がかつてと今とが違ってしかたがない。従軍慰安婦の産ませない性、銃後の産めよ増やせよの性、そして今の東南アジアの売春婦の産ませない性、産めよの妻の性、女の状況は少しも変わっていないのではないのか、私たちは、きち

んと日本の家族制度を問い直し、アジアの状況のちがう女たちとつながっていかねばと思う。今度のタイの旅で、タイの女性が「私は日本政府は大きらいだ。しかしあなたたちは別だ」と語気荒くいった言葉が忘れられない。タイの小さな村で親のいない子どもたちを集め、教育という場を通して共同体をつくっている彼女たち、現在の文化や物質社会を問い直しつつ自分たちの生き方を模索している。私は、彼女たちとの繋りを求めつつ私たちは何をすればよいか、自分の場から何ができるかながらながら少しづつ動いていこうと、今思っているところです。

司会 かつて日本が「南方」へ侵略していった時「鉄鎖の民を解放」することを大義名分としていた。侵略がむき出しの姿をとってあれば反対もしやすい。しかし「解放」や「近代化」を名目として侵略をしていったことは歴史が示している。いままた「遅れた」アジアの国を「援助」し「近代化」する名目で、日本資本がアジアへ出ている。「援助」の名のもとで何が進んでいるのか。「援助」というきれいな言葉にごまかされないよう、私たちは「援助」の実態に注目していきたいと思えます。ありがとうございます。

パリとベルリンで

女の連帯

富山 妙子

—— 昨年の五、六月を富山さんは関西各地で光州のことを訴える展覧会を開き、今年は「光州二周年」にむけてパリ、ベルリン、ハイデルベルクで展覧会をされましたが、それについてお話し下さい。

三カ月間のヨーロッパ滞在中にパリ、ベルリンで二回、ハイデルベルクと四回の展覧会と『自由光州』の映画や、金芝河の詩をもとにした、『しばられた手の祈り』や『蜚語』のストライドの上映をしました。この展覧会をこんどはウィーンの『おーJAPAN』の河内喜彦氏らでできた「新しい民主の波」のグループがやって下さいます。

ベルリンでの二つの展覧会や集会を実現させたのはドイツ人女性のイルセ・レンツさんと「アジアの女たちの会」で国籍法をやったこれ、ベルリンに滞在している石田玲子さんです。この方たちがあちこちに散らばっている同じ思いの人たちを結びつけていったのです。

そこでベルリンでの展覧会は、日本人と韓国女性、ドイツ人が出会う場になりました。展覧会場で韓国人看護婦さんたちの討論会がありました。それはドイツが景気のよかつた時代に多くの移民労働者を必要とした。ドイツ人が嫌がる炭坑夫や看護婦の仕事は韓国人にさせていたのが、経済不況になり、そのしわ寄せはまず、移民労働者と女にくるわけですね。

韓国人看護婦さんたちの発言を聞きながら、彼女たちの問題意識のとなえ方に驚きました。

『被抑圧者の教育』を書いたパウ・ロ・フレイレが真の教育とは問題意識を育てることだといったの思い出しました。白人社会の中でアジア人として、移民労働者として、女として生き、きびしい現実に出会い、鍛えられたからでしょう。また日本人、韓国人の女たちはヨーロッパに住んでみて、つくづく自国の封建的な女性差別に目ざめる、ここでは妻

が働くことも、夫が家事をするのも今ではあたり前になっており、結婚の形態も、男女の関係も大きく変わりつつあるのですから、なんだか私は解放区に入ったような自由を感じました。

—— パリの方はどうでしたか。女性解放の視点で……

パリでも人の嫌がる仕事をしているのは、フランスの旧植民地だったアフリカの黒人や、アルジェリア、ベトナム人などですね。

いわゆる先進国といわれる国々は植民地支配と、低賃金の移民労働の上に成り立ってきた。植民地と宗主国の関係は男と女の関係に共通性がある。ヨーロッパの女性解放運動は第三世界につき上げられ、この問題に取り組みはじめていた、そこに

「アジアの女たちの会」と共通性があるのです。

—— 私は「アジアの女たちの会」に参加しながら、なぜ自国のことをほっておいてアジアたのかと、ずいぶん批判されましたがね。

それは私も同じです。なぜ韓国のことをやるのかと……

支配者側は多国籍企業でグローバルな視点であるのにくらべ、私たちは新植民地主義の構造がつかみにくいようにさせられている。

植民地と宗主国の関係は、男と女の関係に似ている。パリの女性解放の雑誌『デ・ファム』のインタビューで「アジアの女たち」のことを語ってききました。女性解放が抑圧されている第三世界の女たちとの連帯を彼女たちも考えているようです。

「アジアの女たちの会」が取組んできた、買春観光、経済侵略、国籍法、文化侵略のことなどを知り、アジアから来ている留学生など、それは熱い心で受けとめてくれるのです。

またヨーロッパ人にとっても日本のイメージは、ソニーやトヨタや、茶の湯、生け花に象徴されていた。それがここにも、自分たちと同じような課題に取組んでいるという驚きで、連帯へのメッセージになったように思えるのです。



ベルリンのフェミニスト画廊での個展会場
イルセ・レンツさんと

恐るべき

中華料理店症候群!!

一九八一年十一月三〇日から十二月四日までシンガポールで五三カ国の代表四〇〇人の参加により第一回国際障害者会議が開催された。この会議の最中、日本の女性がグルタミン酸ナトリウム（MSG）による中華料理店症候群にかかる被害に会い、現地の新聞にも大きく報道された。

十二月三日、会議の最後の夜、ハイヤット・ホテルの中華料理店で宴会がもたれた。通訳として参加した三箇真美さんは、緊張の連続で食欲がなく、当日は朝から何も食べていなかった。ジュースを飲み、オードブルの次に大好物の鰯の鰭のスープを口にしていると、急に心臓が苦しくなり、手がしびれ、激痛が首を襲った。かろうじて立ち、ロビーに行

ったものの、そのまま意識を失った。病名は中華料理店症候群。味の素の主成分MSGによっておこる。三箇さんは「味の素が有害であるという知識を全く持っていませんでした。心臓が少々悪いので、今回も心臓のせいかと思っていると体が動かなくなってしまう、そのうちまわりが騒ぎだして……」

日本在住のアメリカ人、ペイトン牧師は、この後の経過を「同席していたシンガポールの二人の医者が診察し、二人とも中華料理店症候群と診断しました。心臓に異常はありませんでした」と語る。三箇さんの病状は二時間後に落着いたと聞く。同じ頃、シンガポールの女性、手話通訳のイエオさんも心臓の動悸と首に激痛を感じ、オーストラリアの女性と日本の女性羽成さんもスープを飲んでいて、心臓に異常を感じた。結局、この晩、四人の健康者の女性が、中華料理店症候群にかかった。

翌日、調査にやって来たシンガポール政府の環境局の四人の役人も、化学食中毒・中華料理店症候群であることを確認した。

●中華料理店症候群とは：

日本消費者連盟の戸田清さんの説明によると、「二、三分から三〇分後に、体のしびれ、心臓の動悸、顔のほてり、目まい、倦怠感、吐き気などの症状がはじめ、長くて二四時間、通常二―七時間位病状が持続する」という。特に、空腹時におこりやすく、アルコールや中枢神経系を

刺激する薬物によって作用が増強する。女性の方がMSGに敏感。動物実験では、MSGは脳障害、腎臓障害をひきおこすという事例が、世界各国で報告されている。

現在、MSGは発酵法により製造されている。酢酸、デンプン、糖蜜を微生物に食べさせてグルタミン酸を作り、水酸化ナトリウムで中和する。この過程で、例えば酢酸は石油から製造されるので、間接的にせよ石油に由来する不純物が混入する可能性がある。いずれにせよ、ある特定の物資（MSG）を大量に摂取すれば、体内の成分のバランスをくずし、異常がおきるのは当然だ。

十数年前に、MSGの使いすぎの味付コンブで、中華料理店症候群が多発し、東京都が規制にのりだした。現在、ベビーフードには使用されていない。だがこの化学食中毒は病状があまり知られていず、症状が軽いとそれとは気づかずに見すごされてしまう。「以前にも、アメリカで同じ症状になりましたが深く考えませんでした。今回も三箇さんが倒れなかつたら、環境が変わったせいとか、小心なため心臓がドキドキするのだろうと思ったでしょう」という羽成さんの言葉がこの事実を裏付けている。帰国直後、ペイトン牧師のところに「味の素」から連絡がはいり、面談し

「靖国神社」とは……

このところ毎年、東京・九段の遠端の桜が散り、八重桜が開くころになると繰り返されるのが、靖国神社の春期例大祭での首相の参拝と、「みんなて靖国神社にお参りする国会議員の会」の議員たちによる集団参拝である。春秋の例大祭とか八・一五を除けば、マスコミや若い世代の目に止ることのないかみえるこの靖国神社も、実は、戦前の日本においては、軍国主義の精神的支柱の役割を果たしていたし、戦後の保守化・軍事大国化の流れの中で、靖国神社を再び国家のものとしようとする動きは、暗流となって続いていた。

明治維新以来の「日本人戦死者」二四四万余名をまつる靖国神社は、明治維新の際の天皇方の死者をまつるため一八六九年（明治二年）に建てられた東京招魂社が、日本の度重なる戦争によって、祭神の数はふえ続け、発展して行ったものである。

靖国神社はその名の示す通り、日本の神道の社（やしろ）であるが、第二次大戦終了までは陸・海軍省の管理下におかれ、他の神社とは異なる性格をもっている。靖国神社の祭神、「みたましろ」とよばれるものは正確には、これらの死者たちの名簿

——霊雲簿（れいじぼ）である。もちろん、この名簿にしるされるのは天皇のための戦争で、天皇のために生命を捧げた死者だけである。

もともと日本の宗教のなかには、戦場などで非業の死をとげた者の霊が、たたりをしないように、敵味方の別なくこれをまつる御霊信仰の伝統があった。靖国神社は、一方にこの伝統を受けつぎながら、一方では非戦闘員はもとより、敵前逃亡者など、天皇のために忠義をつくさなかつたものは、祭神から厳しく排除している。祭神の中にはBC級、A級戦犯が入っている。今もなお、毎年新たに、軍籍にあった戦時失跡宣告者など三十数年前の死者たちがこの名簿に加わって行く。

しかし、この死者たちはただ、リストに書き加えられることによって「神」となるのではない。もうひとつの儀式として、例大祭における天皇、またはその代理である勅使の参拝が必要とされる。いわば天皇のための死者たちは、現人神（あらひとがみ）である天皇の拝礼によって始めて神となるのであり、天皇は自ら神であり、祭司の役も果すのである。天皇制国家のもとで、天皇が臣下

たところ、広報部長ら三人は誤解を解きたいと語った。彼らは味の素が安全であると主張し、アメリカ人の中華料理店症候群は、エキゾチックな東洋料理に対する心理的不信感によりひきおこされる、ハイヤットホテルが使ったMSGは味の素でなかつたと説明した。

●たかまる批判の声

しかし、「味の素」がいかに弁明しようとも、中華料理店症候群は世界各地でおこっており、それに対する批判の声はとめようもない。

一九七九年にはタイのマスコミによりMSG反対のキャンペーンが一年間続けられ、フィリピン小児科協会もMSGは赤ちゃんの脳障害や成長の遅れをひきおこすというキャンペーンを全国でおこなった。最近では、マレーシアのペナン消費者協会が、一九八一年七月の機関誌で三頁にわたる特集を組み、MSGの有害性を詳しくレポートしている。

MSGの有害性と、味の素が不要商品であることを、一番よく知っているのは、たぶん企業自身だろう。だからこそ、宣伝に力をいれ、MSGに対するあらゆる苦情に対し神経を使い防戦につとめているのだ。私たちは「味の素」に企業の良心を問いたい。（遠野はるひ）

であるものの霊を自らまつり、それを拝むことは、破格の光栄であった。戦前派ならよく知っている「九段の母」という歌がある。

上野駅から九段まで勝手しらない
じれつたさ 杖にすがって一日がかり、……

こんな立派なお社に、神とまつられ、もったいなさよ、母は泣けますうれしさに

息子を奪われた母を、ここまで愚ろうするのかと言いたいが、戦前の日本社会ではそれを公けにすることも許されなかつた。せめても……

靖国の杜（もり）にみ霊は鎮まるも
折々帰れ母の夢路に
と願うのが、せいじっぱいではなかつただろうか。

九段の母、靖国の妻、靖国の遺児のせいじっぱいのPRだけでなく、戦前の学校教育の中で、国定教科書を通し、「君のため国のためにつくした人々をかやうに社にまつり、又ていねいなお祭りをするのは天皇陛下のおぼしめしによるものでございませう」と子どもたちは教えこまれた。

国家神道の解体へ

戦後、占領軍は、こうした国家神道が日本の軍国主義に果たした役割を見逃さなかつた。一九四五年（昭和二年）一二月には、国家神道への政



府の支援を一切禁止する「神道指令」が出され、一九四七年（昭二二年）施行の新しい日本国憲法には、宗教の自由とならんで、政教分離の規定が定められた。靖国神社は国の保護を失ない、一宗教法人となった。

しかし、一九五〇年の朝鮮戦争、五年の対米講和条約発効を機として、自衛隊の創設とセットになったように、靖国神社の国家護持を求め、声が高まって来た。その主流となったのは、戦没者遺族たちによる日本遺族会や旧軍人、神道関係者等であり、その人々は立場をや、異にしなからず、政府自民党や財界と結びつき、「靖国神社国家護持法案」の提出を求めて来た。その結果、一九六九年には第一回の法案が提出され、以後七四年まで法案は五度提出されたがその度に国会内外の激しい反対によって廃案になった。しかし、七四年以降、靖国推進派は、草の根からの運動に方針を転じ、「英霊にこたえる会」を結成して全国に支部をもうけ、各地で、靖国神社への天皇首相の公式参拝を求める請願を地方議会に提出し、意見書の採択を求める等の動きが続いている。

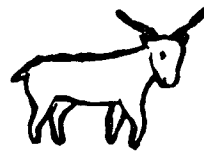
なぜ、日本人戦没者だけを……

今年（一九八二年）四月、政府は八月一日を「戦没者を追悼し平和

を祈念する日」とすることを閣議で決定した。これに先立って、政府は「追悼の日」についての懇談会を設けて各界の意見を諮問したが、キリスト教界から招かれたある牧師は、

「岩壁の母は日本にだけいるのではありません。台湾・朝鮮には今なお日本の軍隊に連れさられた夫や息子を空しく待つ妻や母がいます。さらにアジアの各地には日本軍によって殺された人々の家族がいるのに、その人々に対する一言の赦罪も、一片の保障もなく、日本人戦没者だけを記念することには反対します」とのべた。だが、江藤淳、曾野綾子、高須美子氏ら「有識者」にはこの発言は届かなかったようだ。

台湾人・朝鮮人の戦死者たちもまた、当時、創氏改名によって強要された日本名で靖国神社にまつられていた。その妻や母たちが帰って来ない自分たちの肉親が、こんなところで、異国の「神」となっていると知ったとすれば、そのショックはどうだろうか。



「靖国の妻」を拒む

白いヘルメットをかぶり、背中をびんとのびしてラッタッタ（原付自転車）に乗って、中谷さんは小学校に向かう。山口市給食調理員——「学校給食のおばさん」である。

中谷康子さん。殉職自衛官である夫を無断で靖国神社にまつることは許せない。憲法の政教分離の原則に反する」と国（自衛隊）と隊友会を相手どって、合祀取り下げを求める「殉職自衛官護国神社合祀拒否訴訟」の原告である。

中谷さんの夫孝文氏は、陸上自衛隊岩手地方連絡部釜石出張所勤務の二等陸尉で、一九六八年一月十二日、公務のため自衛隊ジープに同乗中、対向車の民間大型トラックと正面衝突、即死した。

病院にかけつけた中谷さんの目に飛び込んだのはベッドの上で毛布を一枚かけられただけの裸の夫の変わり果てた姿だった。その時の対面時間はたった三十分だったという。盛岡地連での焼香、駐屯地での部隊葬と、夫の遺体は一度も自宅に返されることがなく、自衛隊のものとして葬儀が営まれた。死者に最も近い妻の感情は完全に無視されたのだ。

中谷さんは夫の死後、長男の嫁と

事務次官通達を出さざるを得なくなる。

敗戦後、国家神道の解体に伴って靖国神社の国家護持は禁じられた。しかし、自民党などを中心に靖国神社を再び国家護持させようという動きが強まり、靖国法案が六九年以来、五回にわたって国会に提出された。しかし、靖国法案は軍国主義につながるものばけしい反対運動で成立がはばまれた。

このような靖国闘争の中で中谷さんの裁判が始まった。山口県は軍人を多く生み出した土地柄である。護国神社の境内には「戦争裁判殉国烈士之碑」がある。

ひとりの女性が裁判をおこしたことに對して、「非国民は死ぬ」「国賊だ」「日本に住む必要なし」「共産圏に消えろ」「大馬鹿女」と脅迫状や脅迫電話が殺到するよう土地柄なのである。

苦しい六年間の闘いは、七九年三月二日一審判決の勝訴でむくわれた。判決は、中谷さんの訴えをほぼ全面的に認め、「合祀申請は自衛隊山口地方連絡部職員と、隊友会連合会の共同の行為で、国がこの申請に加わったことは違憲」とあるとの判断を示し、慰謝料全額の支払いを命じた。しかし合祀申請の取り下げについては、隊友会が護国神社に取り下

げを求めて断わられたいきさつをあげ「原告の訴えは理由がない」とした。

現在、相手方の上告により争われている広島高裁での裁判に、中谷さんは何の気負いもなく自衛隊の違憲行為を問いつづけている。おそろしい流れに向かって、ひとりの女性がたち向かっているのだ。

提訴してから九年。この裁判を支えてきたのは信仰であり、女の一途さであろうか。

「夫を失ったことは神様のなさったことだと思っても、自分が理解することはとても難しかった」と正直だ。いまや「夫の死は合祀を拒否すること、その死が無駄にならない。神の愛が夫を生かし、私を生かす」といい切る。

「合祀はお断りします」の一言からはじまった中谷さんの裁判闘争は「夫を返せ」の私憤から「夫の死を利用して国のために死ぬものを美化し、ふたたび英霊をうみだそうとしている者を許してはならない。それが私の裁判闘争の意味だ」と思う公憤に変わっていく。その女のひたむきさに人々が共感し、支援の輪が広がる。気負いもなく、つつましく生きていくひとりの女に秘められた力に励まされる。

（世界一九八一年八月号より抜粋）

する鎮座祭と直会の儀の挙行、二〇日に春季慰霊大祭の斎行をするとの内容、電話で再度断る。七月、護国神社から「御祭神中谷孝文命奉慰のため御駕志をもつて永代神楽料御奉納相成り感佩の至りに存じます」という「合祀」通知が、山口地連の自衛官より配達される。

中谷さんの再三の抗議に対して自衛隊山口地連は「ご主人は自分のために死んだのではなく、国のために亡くなった。護国神社に祀ってあげるのは当然」「現職の自衛隊員に誇りを持たせ、士気を鼓舞するために祀った」と言われ「騙された、裏切られた」という怒りと悲しみが体中を走ったような気がしました」と当時の口惜しさを語る。亡き夫と共に静かな祈りの中で日々くらししているのに、再び、自分の全く関与しない所で勝手なことをされた口惜しさ、怒りで、中谷さんは七三年一月、国（山口地方連絡部）及び隊友会山口支部連合会を相手に合祀申請手続きの取り消しと慰謝料請求の裁判に踏み切る。

中谷さんが初めて出合った牧師は、当時、山口市の山口信愛教会に赴任してきたばかりの、林健二牧師であった。のちに、中谷さんの裁判闘争を支える会の責任者として、中谷さんを励まし、裁判の資料集め、資産

集会

女たちは戦争への道を許さない

報告

八〇年十二月、「戦争への道は許さない」との叫びをあげて立ち上がった女たちは、八〇年十二・七集会、八一年五・二集会、八・一五「女のマラソン演説会」を経る中で、様々な場にいる女たちが手をつなぎ、全国各地での女たちの集会開催を経て、反戦の火はひろがっていった。八一年十二月六日には日比谷野外音楽堂に三〇〇〇名をこす女たちが集まって「戦争への道を許さない」女たちの集会を持った。

私たち「アジアの女たちの会」は二〇〇〇個の風船と、「女たちは戦争を許さない」「女の怒りを行動に」「アジアへの侵略を許すな」などと自分で書いた創意とセンスあふれるプラカードを持ち、横断幕をかけて隊列に加わった。集会の中で私たちの

会員の一人がフィリピンのウィメンズ・グループから送られてきたメッセージを読みあげ、かつての大東亜戦争の時、フィリピンを侵略した日本が、今は経済侵略、買春観光という形で再びフィリピンを搾取している実態が訴えられた。

集会では、反核憲法を制定したベラウのローマンベドール氏から、核実験、核廃棄物の海洋投棄への反対運動への連帯の訴えがあった。一方イギリスのレオニー・カルデコットさんは、数十万人規模の反核集会、デモが開かれているヨーロッパからみた平和運動を女性解放運動と結びつけて、女の行動の大切さを訴えた。いま国内では靖国神社への閣僚の集団参拝、教科書攻撃、軍事予算の肥大化などあらゆる場で反動化、軍

12・6集会にあてた フィリピンからのメッセージ

かつて、日本軍は、フィリピンを侵略し、私たちのすべてを奪い、破壊しつくしました。日本軍の犯した残虐行為は、今もなお、私たちの記憶から消えることなく、フィリピンの若い世代へ語りつがれていきます。そして今、日本の経済侵略によるフィリピン民衆への搾取は、目にあまるものがあります。私たちの目には日本人は市民服を着た軍隊と映ります。

買春観光については、日本でも広く問題になったと聞いています。もうこれ以上、私たちの国土を荒し、人々を搾取しないでください。平和を創り出していく行動に、共に立ちあがりましょう。女たちの手で平和を創り出していく。私たちは皆さんが日本の第二の侵略を阻止するために、立ちあがることを訴えます。共に闘いましょう。

フィリピン・ウィメンズグループ
私たちはどう闘うか考えていかねばならない。

時事通信社の本

村井吉敬著

等身大の豊かさを探る！ 小さな民からの発想 顔のない豊かさを問う

日本の過疎村、地方の町工場あるいはインドネシアの都市、農村の小さな民の生活の場を訪ね、土の悲鳴を聞き、魚の涙を見つ、人間の顔が見えにくくなってきている（近代化）の中身を考える。

火の海の墓標
あるくアジア主義者の流転と帰結
後藤乾一著
46判/定価1100円千250円

東京・千代田・日比谷振東4-85000

ひろば

私をはじめ世界中の沢山の人間たちが、自然と共に生きようとする少数の人たちの土を水を空気を、そして肉体を侵し続けております。

当岩手にも、放射能という魔の手がのびてきました。滝沢村には、医療用放射性廃棄物処理場が建設されようとしておりますが、権力側の安全宣言にのせられたり、命よりも財布の重みを重視したりする者が圧倒的多数を占め、少数派である反対派に力づくで迫ってきております。

日本が韓国を昔、侵略し、沢山の人々を殺し、支配し続け、そしてまた、戦後も、人殺しのための道具をいろいろな形にかえて、売り続け

ている今日までの仕打ち、このような中で、朴・全斗煥は育ったことを思うとき、その元凶が、日本の政府、軍国主義者であろうと存じます。また、それを支える私たちの罪であろうと自覚はいたしますが、今、私にできますことは、ほんの僅か一万円ですが、「分断されている韓国の政治犯に、家族たちの面会の費用を！」に御利用下さいますようお願い申し上げます。（岩手 S・M）

私は富山でノーマイククラブなるものをつくり、かつ化粧品品の害を宣伝しているものの一人です。最近アジアにおける化粧品会社の進出などにより、美しいアジアの女たちに、あやまった価値感を押しつけているとのこと。私自身、「フィリピンバ

ナナと私たち」というパンフとスライドを見るまで、気になりつつも、アジアのことについては、今一つ身がはいらなかったのですが、そのスライドのあと、私自身もまさしくアジアの一員なのだと知らされました。先日、塩沢美代子氏の講演を聞いたときも、私たちの低賃金のそのまたずつと下に、アジアの女たちの重労働と低賃金があることを知らされたのです。今まで西洋にしか目がいつてなかった私自身に恥じています。（富山 M・T）

先日、「銃後史ノート」の集いに参加しました。皇紀二千六百年、まさにその年、現在のサハリンで私は生まれました。その時、産褥の床で母が聞いた歌、街頭に流れてい



たのは、その時代の最大のヒット曲「愛国行進曲」だったのです。そんなお祭りさざぎの中での誕生した私が、今年も天皇誕生日にお祝いの膳を用意したのです。あの罪深い裕仁のためではなく、朝鮮人である息子の10才の誕生日だからです。この子ももう数年で外国人登録法により、指紋押捺や常時携帯義務が待っています。日本で生まれ、日本以外に行つたことがないこの子が、国際人権規約を採択批准したこの国、日本においてです。どうぞ、このことに注目して欲しい。（東京 C・S）

活動報告

(1981年10月～1982年5月)

- '81 10・21女大学 戦争と私たちとアジア 第2回「教科書はいま」中島通子氏 国分一太郎氏
- 11・18女大学 同第3回「ここまで来た日本の軍勢力」土井たか子氏
- 11・21「タイの子どもたち」ラチャニさん 囲んで
- 11・28学習会 「死の鉄路」泰緬鉄道の記録-訳者の田辺寿夫氏を囲んで
- 12・6「女たちは戦争への道を許さない！」集会（日比谷野音）参加
- 12・16女大学 同第4回「どこまですすむ日本の経済侵略」-環太平洋構想とは何か- 北沢洋子氏
- 12・19学習会 スライド「原子力-その隠された実態」とお話-自主講座・石川治夫氏を囲んで
- 12・21フィリピンのシスターを囲んで
- 12・22「家庭」学習会-家庭基盤充実要綱-
- '82 1・6運営委員会発足
- 1・6「味の素」緊急報告集会
- 1・20女大学 同第5回「レーガンの核戦略とアジア」近藤和子氏
- 1・23「家族」学習会-資本主義と家族-
- 1・23「アジアにみる侵略戦争の爪あと」学習会-総論その1-
- 1・30学習会「フィリピン新人民軍従軍記」著者の野村進氏を囲んで
- 2・6「家族」学習会-戦前・戦後の家族政策史-
- 2・17女大学 同第6回「靖国」を支えるもの-山口明子・五島昌子・内海愛子
- 2・20「アジアにみる侵略戦争の爪あと」学習会-総論その2-
- 「家族」学習会-討論-
- 2・27学習会 韓国民衆の暮らしぶり-会員からの報告
- 3・1「買春」を考える学習会-資料検討
- 3・2ベラウからの報告-シスターを囲んで
- 3・12「アジアにみる侵略戦争の爪あと」学習会-台湾・動員された女たち
- 3・13「家族」学習会-まとめ-
- 3・17女大学 同第7回「再び女は家に」-家庭基盤充実政策を問う- 庄野夏子、佐々木智子、草野いづみ
- 4・21女大学 同第8回「アジアはいま」-フィリピンの現状- 野村進氏
- 4・22「買春」を考える学習会-タイのスライドをみる-
- 4・25「アジアにみる侵略戦争の爪あと」学習会-朝鮮における侵略-
- 5・6「買春」を考える学習会-フィリピンのスライドをみる-
- 5・19女大学 同第9回「アジアの教科書にみる日本」五島昌子、船橋邦子他
- 5・20「買春」を考える学習会-からゆきさん-
- 5・29学習会「アビト神父を囲んで」-「アジアにみる侵略戦争の爪あと」学習会-泰緬鉄道とロームシャ-

'82年 夏合宿のお知らせ

テーマ 「反核・反戦の現状を考える」 予定
日 時 8月27日(金)～29日(日) 2泊3日
(尚、1泊でも可)
場 所 静岡県賀茂郡東伊豆町白田あすど1652の1
全電通「団結の家」
プール、温泉、体育館があります。

申込締切 7月24日まで

参加申込金1000円(100切手10枚)を同封して申込んで下さい。子連れも大歓迎です。多数の参加を期待しています。一年に一度みんなが出合える機会です。なお、参加は会員に限ります。

機関誌「アジアと女性解放」

第1号	韓国民主化闘争の女たち	300円★
第2号	買春観光を許すな!	300円★
第3号	日本企業は海外で何をしているか	300円★
第4号	アジアへの文化侵略	300円★
第5号	いま戦争責任を考える	300円★
第6号	アジアの闘う女たち	400円
第7号	女と国籍	300円★
第8号	続・買春観光を許すな!	400円★
第9号	第三世界の女と私たち	400円
第10号	光州一周年によせて	400円
第11号	特集・暮らしの中のアジア	400円

★印は残部がありません

送料は1部170円です。郵便振替か切手代用(60円切手)で申し込んで下さい。郵便振替 東京0-46143

ASIAN WOMEN'S LIBERATION English Edition Now Available!

No.1 Asia and Women's Liberation
No.2 Japanese Economic Invasion
No.3 Prostitution Tourism
No.4 Asian Women in Struggle
Price: Inside Japan No.1-¥300,
No.2, No.3 -¥400
Address(for Order):
Asian Women's Association
Poste Restante Miyamasuzaka Post Office
Shibuya-ku, Tokyo, Japan

銃後史ノート

第五号(復刊) 三〇〇 日中開戦・総動員体制下の女たち
第六号(復刊) 三〇〇 二二〇〇 年「三八百年」の女たち
「一九四〇年日中戦争記念号」の中で祝われた皇紀とは……
●「紀元二千八百年」まつり
と女／むらき数子 ●大政翼賛会と婦人団体／大宮みゆき ●リスムに乗って戦争へ／三上田紀子 ●台所と国家／加納実紀代 ●産めよ育てよ国のため／鈴木スミ子 ●戦時下のキリスト者たち／奥田暁子 ●「桜の国」成立前後／長谷川啓子 ●プロパガンダとしての映画／佐藤文子 ●「紀元二千八百年」と教育改革／小園優子

編集・発行・女たちの現在を問う会 川崎市多摩区生田8-21-13(加納)
発売・(株)JCA出版 東京都千代田区神田神保町1-42日東ビル2F

あなたも会員になりませんか?

★今回(No.12)は「戦争とアジアと私たち」を特集しました。軍靴の響きがだんだんと近づいてきた今日、私たちも色々の角度からどうしてそうした現状を少しでも変えていくかを考え、原発問題やアジアの現状の報告をしております。一人でも多く読んで下さるよう、友人や知人に売って下さい。

★複雑な今の状況を正確に知るため、「活動報告」にもあるように会員だけの勉強会も着実に開かれています。アジアから見た日本の状況は、私たちが考えている以上に危険なものです。一緒に学び、考え、行動しませんか。

★年間会費は3500円です。会員には機関誌、ニュースレターを送るほか、会合のお知らせも随時しています。勉強会にも参加できます。

★会員の申込みは下記まで

〒141 東京都品川区北品川5-8-15-1403 五島方

★お願い 財政がひっ迫しておりますので、まだ年会費3500円を、振込んでない方は下記まで至急お振込み下さい。ご協力をお願い致します。

送付先 アジアの女たちの会

〒141 東京都品川区北品川5-8-15-1403 五島方

郵便振替 東京=0-46143

■連絡先が上記に変わりました。よろしく!

編集後記

☆運営委員会のシステムが発足して半年、メンバーは、月に一〇回以上も顔をあわせている。すっかり意気投合し、勉強会も順調にすすんでいます。その成果は次の機関誌で、御期待下さい。
☆今回は思いが多すぎて、機関誌がややもろい感じがしてしまっただけ。☆知ることが一つのきっかけとなり色々なことが見えてきます。生活の場はどう結びつけられるかが問われる。辛抱強く続けて行きたい。

シリーズ・アジアの現代文学

さよなら・再見
黄春明●1200円

マニラ——光る爪
E・M・レイエス●1200円

めこん 東京都文京区本郷1-25-1
☎ 03-815-1688